

留学先国名 : イギリス

留学先学校名 : Durham University

留学期間 : 平成 27 年 10 月 1 日 ~ 平成 31 年 6 月 30 日

学部 1 年目を終え、2 年目が始まりました。昨年度は、ファウンデーション・コースとは大幅に違い、ほぼ全てが勉強したかった歴史学の授業でしたので、とても充実したものでした。モジュール数に余裕があったため、フランス語を第二外国語として選択しました。こちらも長年勉強したかった言語で、始められて大変嬉しく思います。今年は全て歴史学を取ってしまったため、授業としてのフランス語はないのですが、昨年の講義を足掛かりに自主学習での習得に励んでいます。

中世史、近代史、現代史と全ての範囲をカバーするように授業を取らなければいけなかったため、昨年は中世ヨーロッパ史、近代イギリス社会史、現代イギリス政治史、現代アメリカ史の 4 つを選択していました。現代イギリス政治史以外の授業では、週に一度の講義と、二週間に一回のセミナーと呼ばれる少人数でのディスカッションを行います。各学期末に 2000 文字程度のエッセーがありました。出典やその議論の歴史的意義なども含めなければいけないため、短いながらも学術性の高いエッセーで、初学期は特に苦労しました。しかし、難しさと同時に楽しさもありました。

少人数でのディスカッションでは、一次史料と呼ばれる、焦点をあてている年代に編纂あるいは書かれたものを読み、議論します。近代の英語など見慣れないものを読んだ上で議論するのですが、予想していなかった論題が出た場合など、考えている間に他の人が発言することがあり、ついていくのが大変でした。ただ、イギリス人の友人たちもセミナーには四苦八苦しており、ついていけるだけで大丈夫なのかもしれないと思っています。友人同士での日常会話的な議論ならともかく、授業の一環として行われる専門性の高い議論は、イギリス人でも努力してついていっています。ですので、これから留学する方々も、そのあたりはあまり気にすることなく慣れていってくれたらと思います。実感として、3 学期でのセミナーは 1 学期より積極的に参加していったので、慣れるというのは大事なことだと思います。

昨年で一番大変だったのは、4000 文字のエッセーです。長さもそうですが、時代のみを与えられた上で、質問は自分たちで考えないといけなかったのが、ミニ卒業論文のようなものでした。何回も先生との面接を重ね、内容についての議論をして書き上げました。ある歴史的事象一点に絞ってこれほど深く考えるということはそれまでしたことがなく、大変有意義な課題でした。